

初心俳句 令和元年春秋

昨年から始めている初心俳句は、パソコンの俳句日記帳と毎日一度は向合う習慣になっていますが、平成が終わり令和が始まる春から詠んだ日常俳句をいくつか報告致します。

春うらら隅塀外し庭駐車

： 管理する実家の隅塀を外し、前庭の元野菜畑に石を自分で敷き、駐車を便利にした。

平成の帝の旅や民癒やす

： 平成30年記念式典を拝覧し、象徴天皇が旅で民に寄り添われたお姿を思い返した。

縦と横ぐうしの縁を知る彼岸

： ハスの根が何代も繋がるように、人も時間・空間のつながりで生きていくと知った。

春施餓鬼あらたに皆で奉詠歌

： 菩提寺の施餓鬼法要で、今年からご詠歌・和讃のプリントが配られ、みんなで唱えた。

梅雨入りや芭蕉全集通読す

： 山梨大学研究会の「芭蕉全集」を音読で発見し、約千句を辿りながら学習できた。

二千万なくての梅雨やそれもよし

： 二千万円なくても、多くの人が、心と心がけて楽しく暮らしていける気がしている。

仏壇に紫陽花供う梅雨間かな

： 空家の実家で咲いた紫陽花を持ち帰り、仏壇に供えた。

草抜いて苔の小道や蚯蚓鳴く

： 実家の脇道の雑草だけ抜いて、苔絨毯の道にした。そのうち散歩の人に喜ばれるかも。

梅雨空けて朝昼晩のシャワーかな

： 雨が少なかった梅雨が明け、健康体操を続ける日々、朝昼晩のシャワーがありがたい。

断捨離やさわか天と地に通ず

： 「断捨離」を無理せずゆっくり実施中。物も心も、空になると入ってくる自然がある。

手懐けて一病いまだ黙す秋

： 気管支拡張症歴35年。医者は、この病だましましたまし長寿可能、と健康管理を褒める。

名月や富士の水飲み紀壽思う

： 富士山地下水が及ぶ里に育ち、今もその水の酒五勺の晩酌を楽しむ。100歳の予感。

以上。